

令和5年3月1日

狭山市教育委員会
教育長 滝嶋 正司 様

狭山市立山王小学校
校長・関口 循子

令和4年度 狭山市立山王小学校 学校関係者評価表

- ※ 【評価の目安】
 A：よくできている。(90%以上)
 B：概ねできている。(85%以上)
 C：あまりできていない。(70%以上)
 D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・折に触れ校長が話題にあげているため意識している。 ・職員室の風通しがよいので、児童の情報を共有し、協力できている。	・教職員自己評価の一番上に、「重点目標を校長が話題にしているので意識している」とあり、とても素晴らしいことだと感じる。 ・運動会などの行事で職員が役割分担をしながら励まし合っていて動いている姿を拝見し、良い学校だと感じた。 ・コロナ禍からの乗り越えを感じる一年であった。山王小学校は、状況に応じて柔軟に対応できている。 ・安全安心については、登下校等も含めて学校だけでは難しい。より一層の地域協力が不可欠である。
	2	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・連携が取れて早期対応ができている。児童の話を聞いて、考えている方も多い。 ・救急車要請・到着・搬送・保護者への連絡と、円滑な対応が出来た。	
	3	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	・学校内の備品修理を早期にさせていただけた。ありがたい。 ・トイレ掃除指導が行き届いていないところがある。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	・特別日課でも、基本的に清掃時間が確保されている。	
確かな学力の育成	5	教師は、研修に主体的に取り組み、指導力の向上に努めている。	B	・有意義な研修を行っている。特に夏の研修で感じた。 ・本年度の研修は特に目的がはっきりしていて、内容が充実していると感じる。	・第3学年の算数が習熟度別で行われており、とても良い取り組みだと思う。 ・高学年の算数専科のありかたや、教科担任制の進展など、新しい取り組みにも柔軟に対応する必要があることが分かった。 ・授業のICT化(タブレット活用等)が進んでいることが分かった。幼保とのギャップを埋めていく必要がある。 ・学校全体が落ち着いた雰囲気であり、児童が授業に集中できている。 ・学級の学習環境整備・授業中の児童への細かな部分での配慮・声掛けなどにも十分に心を配ってほしい。
	6	教師は、児童がわかりやすい授業を実施している。	B	・授業時間だけでは、十分でない児童へは個別対応した。短時間でも、効果があった。少人数指導担当の配置はぜひ継続してほしい。	
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B	・離席がなく落ち着いて学習している。 ・学習に取り組んでいる児童が多く、挙手率も高い。	
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B	・数人の落ち着かない児童がいる。うまく向き合っていきたい。 ・家庭学習に継続的に取り組むことが難しい児童がいる。	
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	B	・家に帰ってから次の日の準備と宿題をやる時間がルーティーン化されていないことがわかった。	
豊かな心の育成	10	児童は、進んであいさつをしている。	B	・朝や帰りがけに、自分から声をかけられる児童が増えた。 ・児童自ら挨拶することができるのは50%程度に思う。	・幼稚園で保護者の話を聞いていると小学校ごとに対応の差を感じる事が多い。山王小学校は、「不登校」「支援が必要な児童」などに対して、丁寧にきめ細かく対応出来ている。 ・家庭の状況に合わせて柔軟に対応している様子が見える。 ・コロナ禍を通して、子どもなりに折り合いをつけて生活をしている。友達の大切さを実感し助け合って学校生活を送ってほしい。 ・マスク着用がコミュニケーション能力の育成に大きな影響を与えている。状況の変化に対応していかなければならない。
	11	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・呼び捨てや場にそぐわない言葉遣いも見られる。 ・相手を批判、侮辱するような言葉が口癖のようになってしまっている児童もいるため、指導が必要である。	
	12	児童は、時間や決まりを守って生活している。	B	・決まり(ルール)については、定期的に確認し、共通行動がとれるようにする必要がある。 ・学年の生徒指導部を中心に、複数の目で指導に当たることができた。	
	13	教職員は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A	・いじめの確認を一人でなく複数で行っているのが、良い。	
健康・体力	14	学校は、児童の体力を高めている。	B	・冬でも半袖で取り組む児童が多く、運動量もあり、良いと感じた。 ・朝マラソンなど、少しずつ復活している体力づくりの積み重ねが、確実に体力向上につながると感じている。	・コロナ禍3年目、運動に対しても工夫が見えた。 ・今までの日常が少しずつ戻ってきている。マスクの着脱等、子どもの気持ちも大切にしながら変えていけたらよい。 ・コロナ禍3年目も状況に応じてしっかりと対応が出来ている。 ・自己評価、保護者アンケートで改善の傾向が見られる。日々の取組が成果を出しているであろう。
	15	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B	・外遊びが大好きな児童が多く、上級生が遊んでくれるのも嬉しいようである。 ・生活習慣の乱れが気になる児童がいる。	
	16	児童は、健康を意識した生活をしている。	B	・マスクの着用、手洗い、うがいなど、気を付けて生活している。	
家庭地域との連携	17	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	B	・様々な検討委員会を実施し、来年度や今年度の教育計画を全体周知させるのが早い。ICTにも率先的に取り組んでいる。	・業務のICT化にしっかりと取り組んで情報を地域・保護者に伝えられている。 ・地域に開かれた学校というイメージが山王小にはしっかりとあり良い。 ・通学路の変更などにも学校が中心で動いており良い。行政・地域との連携がますます必要になる。 ・小も保もコロナによって鍛えられている。これからもしっかりと連携していきたい。
	18	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B	・保護者との連携を心がけ教育活動を行えた。 ・地域の方と連携している様子が見え、地域の方からの情報もわかりやすく入ってくる。 ・中学校の先生とは密に連携をとって、様子がわかりやすく伝わる。	
	19	学校は、幼保中と連携し、なめらかな接続に心がけている。	B		